洛星新聞

洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL (463) 3281 (代)

印刷㈱吉川印刷工業所

やっと成立 中高生徒会

文化祭が重要課題

文化祭を中心課題とした生徒会成立により、やっと学園生活も軌道にのったようだ。
新聞局は高校生徒会長のインタビューを中心に生徒会についてまとめてみた。

高校生徒会長
三田 英治

中学生徒会長
藤岡 穣

中高生徒会成立

昭和五十二年度前期中高生徒会が成立した。

中学執行部は四月に成立、その後の予算編成とほぼ順調にすべり出した。それに反して、中学をリードしてやらなければならないはずの高校執行部は、当初五月に入っても役員立候補者が現れず、昨年度後期にひき続いてまたしても不成立か?と危ぶまれた。が、その後の高ⅡHRにおける話し合いの結果、高Ⅱが一念発起、会長を始め執行委員全員が高Ⅱという生徒会が誕生した。

成立後は、昨年度後期からの問題であった予算を編成し、五月二十五日の生徒総会において承認を得て成立させるなど、現在活動がようやく軌道にのってきたようである。

新聞局では、高校生徒会長の三田君にインタビューして抱負や活動状況、諸問題に対する考え等を述べてもらった。以下は一問一答をまとめたものである。

Q—今期の目標は?

A—大目標としては、①予算の早期成立（これは既に成立済）②文化祭の成功である。

Q—現在の活動状況を聞かせて下さい。

A—予算成立後は、文化祭の方針決定のために執行部内で協議を行っている。

Q—文化祭の方針について、今どういう事をお考えですか?

A—今はまだイメージづくりの段階だが、文化祭の「三本の柱」（文化祭は①表現 ②体験 ③生徒間の交流の場である）を確立したいと思っている。たとえば、また全くの試案であるが、学年演劇の学年単位というワクをはずすことなどを考えている。いずれにせよ、決定次第生徒諸君に通告します。

Q—最後に、最近の生徒の生徒会離れにどう対処されますか。

A—生徒会とHRのつながりを強化する事によって改善したい。たとえば水泳大会やサッカー大会などのスポーツ活動を行ったり、HRにおいて生徒会について話し合ってもらう事を考えている。また、生徒諸君から諸行事の新企画を出してもらう事も多くしたいし、これはまたこれからの事だが、一般の生徒諸君から直接に意見を聞ける場をつくりたいとも思っている。

右の文からもわかるように、今期高校生徒会は成立まではゴタゴタしたが、成立後は現在までのところ積極的に活動している。

ここで思うのだが、我々一般生徒はどうであろうか?

はっきり言って、「生徒会なんか自分には関係ない」と思ってる人が多いのではないだろうか。役員選挙の立会演説会の時でも生徒の集まりは決してよくはなかったし、先日の予算承認の生徒総会においても、「早く帰りたい」と思うばかりに、配られた予算案のプリントをじっくりと読みもせずに承認したのではないだろうか。

たしかに、「あの予算はあれで良かった」・「試験前に生徒総会を開く執行部が悪い」と言ってしまえばそれまでだ。しかし、「無関心」ということは重大な問題ではないだろうか。

生徒会とは、より良い学校生活を送る上での、生徒の、生徒による、生徒のための機関である。したがって、我々生徒全体がその運営に参加していかねばならないことは明白だ。なのに、現状では執行部及び一部の生徒を除いて、アウトサイダー的立場をとっている。これでは、政治で言えば参政権を自ら放棄しているのと同じことである。

生徒会は執行部に「何かをしてもらう」ためにあるのではない。「何かをさせる」ためにあるのだ。

さあ、我々が望んでいることを、どんどん「やらせ」ようではないか。

（編集部）

高校生徒会

昭和五十二年度前期生徒会

高校生徒会
会長　高Ⅱ A 三田 英治
副会長　高Ⅱ A 柿原 裕司
書記長　高Ⅱ C 永井 良和
執行委員
風紀委員長高Ⅱ B 篠永 幸久
文化委員長高Ⅱ D 小長谷俊夫
体育委員長高Ⅱ B 谷内 一良
会計委員長高Ⅱ A 工藤 雅司
無任所　高Ⅱ C 松宮 研二　高Ⅱ A 吉田 靖司
書記局員　高Ⅱ D 久保 洋昭　高Ⅱ C 土山 耕一
会計委員会
委員　高Ⅱ B 西田 肇夫　高Ⅱ B 七里 泰正　高Ⅱ A 岩井 文男
監査委員
委員長高Ⅱ C 高谷 士郎
委員　高Ⅱ D 西谷 芳浩　高Ⅱ A 渡辺 和夫　高Ⅱ A 村上 心　高Ⅱ D 山本 仁司
議長団
議長　高Ⅱ D 山口 隆範
副議長　高Ⅱ A 浅井 潔　高Ⅰ B 青原 英司
評議員
一年A小林・中村　B三谷・竹井　C宗行・山本　D福重・花房
二年A原田・本村　B桂本・村田　C竹市・谷　D長尾・多田
三年A大須賀・吉川　B光枝・山中　C小川・松浦　D乾・宮嶋
風紀委員
一年A森田　B吉田　C上西　D細野
二年A高谷　B小西　C久保田　D堀井
三年A片岡　B岡本　C小石

局説

大新聞の世論操作

与野党逆転をかけた参院選もやっと終る。先の衆院選の時、ロッキード事件が争点となり、その再発防止法の成立を約していた政党も少なくなかったが、結局自民党の根強い反発にあい成立をみなかった。ここで思うのだが、もし世論の盛り上りがあればひょっとしたら自民党もその成立に協力せざるを得なかったのではなかろうか? では何故世論が盛り上がらなかったのか。それはマスコミによる、ある意味での世論操作があったからだということが言えなくもなかろう。去年、ロッキード疑獄の際、某全国紙の社長、専務が「新聞社は検察でもなければ警察でもない。告発報道には危険な要素がある。」と、訓示したのは、それを示しているといえると思う。大新聞社に限らず、現場の記者は例えば五八年の警職法、六十年の安保の時のように世論をリードし、市民により正しい判断への材料を提供しようとする。だが、五八年の時は先の某全国紙の会長は「解説」「論壇」欄を廃止したり、六十年安保の時は、樺 美智子さんの死亡の際に同じ某全国紙の当時の編集局長（現社長）や局次長が政治権力からの圧力を予想して、現場からの記事を次々にボツにし、具体的事実を欠いた抽象的な紙面を作りあげたという事実からわかるように、「編集権」（これは日本独特の政治的概念であるが）の名の下に報道を幹部が規制し、うまく世論を操作する。だが市民は新聞以外には繰り返しニュースを「かみしめる」ものは存在しないがため、それにまんまとのせられてしまう。また、洗剤などの景品によってついつかりその新聞を選んでしまう。

では、そのマスコミの恐しさに我々はどう対抗したら良いのか?

一つは新聞報道に批判的になることであり、もう二つは、新聞以外のメディアにより、それを補うことである。もちろん、現代人（特にビジネスマン）は、そのような時間的余裕はないかも知れない。だが、新聞に限らず活字を短時間に読みこなすのには、若い時からの訓練によるのである。そこに読書の重要性があるのである。

蛇足になるかも知れないが、大新聞のこの世論操作を示すあまりに有名な例をあげてこの稿を終りにしたいと思う。

六〇年安保の時、多くの新聞は岸内閣による日米新安保の強行採決を非難し、国会解散や内閣総辞職を主張しておきながら、連日十万人を超えるデモ隊が国会を包囲し、商店をも含むゼネストが行なわれるようになると、一転して「七社共同宣言」なるものを発表、「事のよってきたるところを別とし、その理由のいかんを問わない」ことにより事件の責任究明をすべて捨てさり、「〝よってきたるゆえん〟を別にし頭痛がするから頭にコウヤクをはるヤブ医者」のごとき態度を示し、日本の新聞界がかつて経験しなかった自発的画一化をした。（この辺の事情は、岩波新書、日高六郎編「一九六〇年五月一九日」にくわしい。）

この事実を洛星新聞の読者はいかに考えられるか?

局員募集

中学生徒会

昭和五十二年度前期生徒会

中学生徒会
会長　M3C 藤岡 穣
副会長　M3C 岡路 明良
無任所委員
総務局員
M3C 岸本 浩　M3D 桂本 照　M3D 仲尾 功一　M2A 川嶋 清樹
M3A 山本 真也　M3B 松林 徹　M3C 片桐 淳　M3C 中川 滋人　M3D 北川 智之　M2A 岡地 明大　M2B 品田 裕
監査局員
局長　M3C 鬼頭 誠司
M3A 吉田 功　M3A 西野 隆之　M3A 上羽 哲也　M3C 堀 雅哉　M3D 高山 達也　M2B 北村 浩二　M2D 高坂 昌信
中央委員
バレーボール部　小尾一郎Ⅰ B　水泳部　井原之敏Ⅱ A
ハンドボール部　中村収志Ⅰ D　山岳部　内片浩二Ⅰ C
スケート部　浅井 潔Ⅱ A　陸上競技部　谷本昌隆Ⅱ C
野球部　藤井宏一Ⅲ A　剣道部　本村 昇Ⅱ A
軟式庭球部　磯野裕昭Ⅱ C　柔道部　中野広史Ⅰ D
硬式庭球部　久保洋昭Ⅱ D　弓道部　服部俊洋Ⅱ C
卓球部　服部 誠Ⅱ C　生徒会顧問　村上哲哉先生

一年A芦田・中西　B山田・吉本　C林・二宮　D戒能・吉田
二年A久保田・加藤　B藤野・上久保　C池田・由良　D松尾・森井
三年A藤田・奥田　B三木・中尾　C平林・宮嶋　D居川・小川
風紀委員
委員長　M3B 飛鳥井雅友
委員
一年A武田・辻　B並河・植村　C岡田・岡村　D藤・小泉
二年A亀田・植村　B川勝・三宅　C田口・山村　D水嶋・仲尾
三年A朝生・大森　B橋本　C中村・田方　D秦原・宅間
文化委員
委員長　M3B 早瀬 信善
委員
一年A岸生　B笹生　C西谷　D勝藤
二年A九里　B赤松　C堂ケ原　D沢田
三年A鈴木　C川谷　D阿川
体育委員
委員長　M3D 高須 良典
委員
一年A江川　B浮村　C藤田　D伊藤
二年A田中　B重次　C斉藤　D坂井
三年A坂口　B千葉　C木村
議長団
議長　M3C 山内 華文
副議長　M3A 東 秀二
選挙管理委員
委員長　M3C 藤田 益嗣
委員
一年A林　B鎌田　C平石　D三品
二年A張　B藤原　C速見　D千保
三年A木村　B石井　D中崎
クラブ部長
オーケストラ部　西村康孝3C
演劇部　福間英記3C
謡曲部　上田 司3D
茶道部　福井義高3B
生物部　稲田 浩3A
写真部　村上 剛3D
天文部　渡部 昇3D
地理部　岡本博之3D
歴史部　小西英孝3B
ECL　船越雅史3C
無線部　是沢英一郎3D
地学部　鈴木 敦2C
美術部　村瀬 剛2B
バドミントン部　嶋津泰幸3A
バスケット部　中井浩之3D
サッカー部　畑 智之3C
バレーボール部　松村 徹3C
ハンドボール部　奥田英貴3C
スケート部　伏木一郎3D
野球部　飯田圭哉3D
軟式庭球部　富田直治3D
硬式庭球部　太田 潤3D
卓球部　和田靖司3A
水泳部　飛弾泰広3A
山岳部　田中路果3A
陸上競技部　船木秀則3C
剣道部　堀口彰文3B
柔道部　溝畑 潔3B
弓道部　小山正彦3D

笠衣

▼昭和四十八年の十月三十一日付の、ある新聞のコラム欄に、おもしろい事が書いてある。田中内閣のころで、筆者の手に、閣議の様子の盗聴テープが入ったという。内容は、田中内閣の人気の低さについてであって、対策として、ゴルフ庁なるものを作ろうという話であり、それについて内閣間で議論していた、というテープである。▼気のきいた冗談だなと感心していたら、次の日の十一月一日のそれを読んでびっくりした。二階堂官房長官がその新聞社に対して、抗議の文書を送ってきたという。本文は、一回読んだらすぐに冗談とわかるような文章である。このように、日本の政治家はなぜ頭が固いのだろうか。冗談もわからないのが政治している日本もやはり頭が固い。▼すべてがすべて、そうとは言えないだろうが、外国の政治家は実にユーモアを持っている。ソ連の故フルシチョフ氏の話だが、モスクワで「フルシチョフは大バカ者だ」と連呼していた男が捕まったといううわさが流れた。外人記者が「その男の罪は何か」とたずねると、「国家の最高機密を漏らした罪だ」と答えたそうだ。▼日本と外国とのユーモアの多さの違いは、どこから来るのだろう。江戸時代、鎖国があったがそのせいもあるだろう。百年も前の事が今までずっと影響を残している。日本人がユーモアをずっと多く持つようになったのは、戦後に入ってからだろう。テレビなどでは、よく人を笑わせる事が商売の芸人が出てくるが、このごろのは、いかにも作られたようで、おもしろくない。意識して笑わそうとしすぎる面が多い。自然に笑えないのだろうか。▼作られた笑いに、「ジャパニーズ・スマイル」というのがある。実態は知らないが、日本人はいつも笑顔でいる事が、不思議らしい。うれしくもないのに笑う、それが、「ジャパニーズ・スマイル」である。本当にはあまり笑えないのは日本人はまじめすぎるからである。落語で、「石川や浜の真砂はつきるとも、われ泣きぬれて蟹とたわむる」と入れかえてくすぐったら電話があって、「下の句は啄木の作です、間違った事を言うから笑われるのです」と言われたそうだ。諸君、もっとユーモアを持とう!

研修旅行

今年度の研修旅行についてご紹介します。

〈中1〉

・期日　八月四日(木)～六日(土)
・行先　吉野・洞川方面

第一日　学校＝木津＝奈良＝下市口＝吉野
第二日　吉野＝大和上市＝下市口＝洞川
第三日　午前中コース別研修
　洞川＝下市口＝大和八木＝奈良＝大久保＝学校

〈中3〉

・期日　九月一日(木)～五日(月)
・行先　西九州方面

第一日　京都＝ひかり＝博多＝唐津虹の松原＝伊万里＝弓張岳
第二日　コース別研修(A)平戸　(B)有田　(C)黒島
第三日　弓張岳＝佐世保＝西海橋＝長崎市内グループ別研修＝長崎
第四日　長崎＝長崎市内(団体行動)＝嬉野＝佐賀＝鳥栖＝古賀＝福間＝小倉港～～(阪九フェリー船中泊)
第五日　～～東神戸＝学校

〈高2〉

・期日　七月二十六日(火)～八月二日(火)
・行先　北海道方面

第一日　京都＝(特)白鳥＝青森～～(船中泊)
第二日　～～函館＝(特)おおぞら1号＝釧路＝阿寒湖
第三日　コース別研修
第四日　阿寒湖＝津別＝北見＝温根湯＝層雲峡
　(コース別研修)
第五日　層雲峡＝旭川＝滝川＝野幌森林公園＝札幌
第六日　札幌市内グループ別研修
第七日　札幌＝小樽～～(新日本海フェリー船中泊)
第八日　～～舞鶴＝京都

国鉄＝＝バス＝＝船～～

今年も躍進の大学合格者数

――京大(64)東大(20)――

ここに五十二年度の大学合格者数を御報告いたします。ここ二、三年の上げ潮ムードに乗せて、本年も多数の大学合格者が出たことは誠に御同慶にたえません。来年度は現行制度の入試の最後の年になりますので、益々本校の成果の挙がることを期待したいものです。

五十四年度から入試制度も変わり、全国共通の一次テストと大学別の二次テストを突破しないと合格できないわけですが、いかに大学入試の形式が変わっても大学の定員が変わらなければ競争の激しさも変わらず、その難関を突破するだけの実力をつけなければならない点は変わりありません。とも角、学校を信頼し、学校の勉強を大切にし、努力すれば、そんな事心配するなと云いたい処です。ここに、本年度の大学合格の成績を御紹介するとともに、今後の躍進を期待するものであります。

(宮山記)

(表中、現は20期、卒は左19期、右18期以前の卒業生)

国立大学

大学名	(学部)	現	卒	計
北大	(理類)	1		1
	(歯)	1		1
筑波大	(人文)	1		1
東大	(文1)	7	2,1	10
	(文2)	1		1
	(文3)		1	1
	(理1)	4	1,2	7
	(理2)	1		1
	(計)	(13)	(7)	(20)
一橋大		1	2	3
京大	(文)		1	1
	(教)	3	2	5
	(法)	7	2	9
	(経)	4	1	5
	(理)	2	1,1	4
	(医)	7	3	10
	(工)	11	15	26
	(農)	2	2	4
	(計)	(36)	(28)	(64)
阪大	(法)		2	2
	(経)	1		1
	(工)	1		1
	(医)	2		2
	(歯)		1	1
	(計)	(4)	(3)	(7)

大学名	(学部)	現	卒	計
滋医大	(医)	3	2	5
神戸大	(法)		1	1
	(経)	3		3
	(理)		1	1
	(工)		1	1
	(医)		1	1
	(計)	(3)	(4)	(7)
東医歯大	(医)	1	1	2
東外大	(独)		1	1
阪外大	(中国)		1	1
徳島大	(医)		1	1
信州大	(医)		1	1
三重大	(医)		1	1
和大	(医)		1	1
京工繊大		2	2,1	5
金沢大	(工)	1		1
山梨大	(工)		1	1
横国大	(工)		1	1
名工大	(工)	1		1
東農工大	(工)		1	1
滋賀大	(経)	2		2
計		70	59	129

公立大学

大学名	(学部)	現	卒	計
京府医	(医)	1	3,6	10
高崎経大	(経)	1		1
名市大	(医)		1	1

私立大学

大学名	(学部)	現	卒	計
慶応大	(医)	2	19	21
早大		3	16	19
上智大			2	2
中央大		1	1	2
同志社		4	6,7	17
立命大		5	6,2	13
関学大			4,4	8
関西大		1	3,1	5
近大			1,2	3
大阪医		9	9,5	23
関西医		1	2	3
京薬大			1	1
阪工大		1	1,1	3
阪歯大		1		1
阪薬大			1	1
航空大		1		1
計		29	94	123

アンケート

高校生活における個人の意識調査

――結果と分析――

1 高校生活の目的
- 勉強 43%
- クラブ 10%
- 遊び 21%
- その他 26%

2 学校にくる理由
- 勉強 44%
- クラブ 9%
- 友達とあえる 17%
- その他 28%

3 勉強は何のため
- 受験 27%
- 将来のため 21%
- 自己の価値を高める 19%
- わからない・しかたなく 16%

4 友人はいるか
- いる 93%
- いない 7%

5 洛星において友人はつくれるか(4でいないと答えた人)
- つくれる 28%
- つくれない 72%

6 洛星の生徒の性格
- 個人主義・利己主義 45%
- 親切ですっきりしている 8%
- 本音と建前の二本立て 38%
- 豪放 3%
- 暖い 3%
- 他人のことを親身に考える 3%

7 洛星の校風
- 自由でよい 24%
- まとまりがない 29%
- 三無・四無主義的 29%
- その他 18%

8 頼れる人は
- 自分のみ 45%
- 友人 25%
- 両親・兄弟 12%
- 先生 6%
- その他 12%

9 生徒会活動について
- もっと協力すべき 39%
- くだらない 38%
- その他 23%

・分析

一般的に高校生活の目的・学校にくる目的はやはり勉強が多い。しかし勉強の目的は確固としたものがなく、受動的に毎日毎日をすごしているようである。また高2高3になるにつれて受験というものが生活の中心になり、そのためにやる気の喪失・勉強への嫌悪感を抱えている人が多いようである。また、学校を大学へ入学するための手段として考えているために愛校心は薄い。

友人はいるがしかし、そのつきあいはあっさりとしていて深く交わりあえないのが現状のようである。その原因として、個人主義・利己主義的な性格の人が多いということ、頼れるものは自分のみということを自ら認識しているためではないだろうか。

生徒会活動についてはその成立状況からみて一見無関心派が多いように思われるが、意外に多くの人が関心を示していることがわかる。

以上が今回のアンケートの結果と分析であるが、勉強→受験→個人主義・利己主義受動的というのが現在の洛星の校風であるようだ。

なお、今回の調査では「その他」の意見もかなり多かった。その主だったものとしては、男子校としての洛星に不満をいだいていること、授業料の高いことに対する不満、学校へくるのは義務であるという考え、校風に幼なさを感じている、などがあげられる。

いんふぉめーしょん

今回は最近の映画についての感想と七月から夏休みにかけての映画の紹介を致します。

まず最近の映画についてですが以前と比較して映画界自体に商業化が見られ、映画は一商品として取扱われ、その主張とか或いは芸術性(映像・筋書・脚本・演出・音楽等の総合芸術として)は色あせ、主張を喪失しつつあります。邦画の斜陽化も、こうした根本的体質における問題に集約できるかも知れません。時や金をかけないで(ちなみに日本で巨費を費したという「犬神家の一族」で、数億。ところが「遥すぎた橋」(七月公開)に至っては九十億?)、にわか仕立ての脚本、企業の中で制約を受けた監督等に加えて、人気を上げる為には素人の歌手等迄使う事でどうして良い作品などできましょう。一方、洋画の方に目を転じて見ましても、七三・四年をピークとして内容的に低落化傾向が見られます。と同時に、この頃から入場料は逆に値上りに上がって行きます。(ちなみに七三年のキネマ旬報ベスト10より主要映画を挙げますと　・スケアクロウ　・ポセイドンアドベンチャー　・ゴッドファーザー　・ジャッカルの風潮であり、止むを得ない事と言えば、それ迄ですが、映画を見て何らかの形で自分の考え方が変ったとか、何かを得たという事があって欲しいと思います。

次に七月から夏休みにかけての映画紹介に移りますが、新聞・雑誌の広告や映画雑誌の案内の様に一作一作アウトラインを列挙しても仕様のない事ですので、何作か簡単に触れるに留め、後は概観を述べておきます。

「遥すぎた橋」

既に封切られ、見られた方も多いでしょうが、第二次大戦最大の激戦とされるマーケットガーデン作戦での連合軍・独軍の戦いを描いたもの。90億の製作費をかけ、街一つを破壊してのスケールの大きさと共にR・レッドフォードらの演技の食い合いが見もの、登場人物が多いので、人物関係がわからなくなるとムードだけに流されるので要注意。

「サスペリア」

「決して一人では見ないでください。」といと例の広告付のオカルト映画。アメリカ娘がドイツのバレー学校に来るや襲われる怪奇の連続……という筋であるが、女性向きの映画で男一人で行ってもいささか味気ない。

「トリフォーの愚春期」

ニューシネマの原点ヌーベルバーグの巨匠フランソワ・トリフォー(「アメリカの夜」等の監督)作の子供達の行動を主体に描いた映画。原題「お小遣」。昨年のキネマ旬報ベスト10の三位。少々玄人好みのするもの。併映は「ウィーク エンド」「ラスト コンサート」。祇園会館にて。以下「セントチネル」「新個人教授」等々。再放映作にも注目して良い映画を見てもらいたいと思う。

写真はサスペリアの一場面

詰将棋

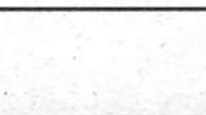
去消の邪魔駒

題　例←

先手　持駒　金

5	4	3	2	1	
			桂	香	一
				王	二
			角	歩	三
					四
					五
				桂	六

題問習練←



先手　持駒　飛　歩

5	4	3	2	1	
	桂	歩		香	一
		銀	歩		二
		角			三
		銀	王	角	四
					五
					六
				香	七

例題の答え角成
▲1二王　金の角が
▲2三の角がとった
　邪魔で三手詰

へんしゅうこうき

部員が今年度に入って急にふえ、やっとまともな(?)新聞が出せそうだと喜んでおります。

今回は特に「局説」と、新設の「いんふぉめーしょん」それに、学園生活への一つの提言としての「アンケート調査」に力を入れてみました。

またまだ至らぬ点は多いですが今後に期待をお願いします。

×　×　×

すたっふ

局長　藤田　次郎　HⅢB
副局長　浅野　真司　HⅢB
局員　北村　博史　HⅠC
　小林　弘明　HⅠC
　岩橋　俊郎　HⅠD
　中野　広史　HⅠD
　谷口　豊隆　HⅠD
　簡井　琢磨　M3A
　吉沢　明康　M1A
写真協力　北川久一郎　HⅠD
顧問　宮山信夫先生
　藤田行男先生

〔詰め将棋の出題はHⅠC村山恭平〕